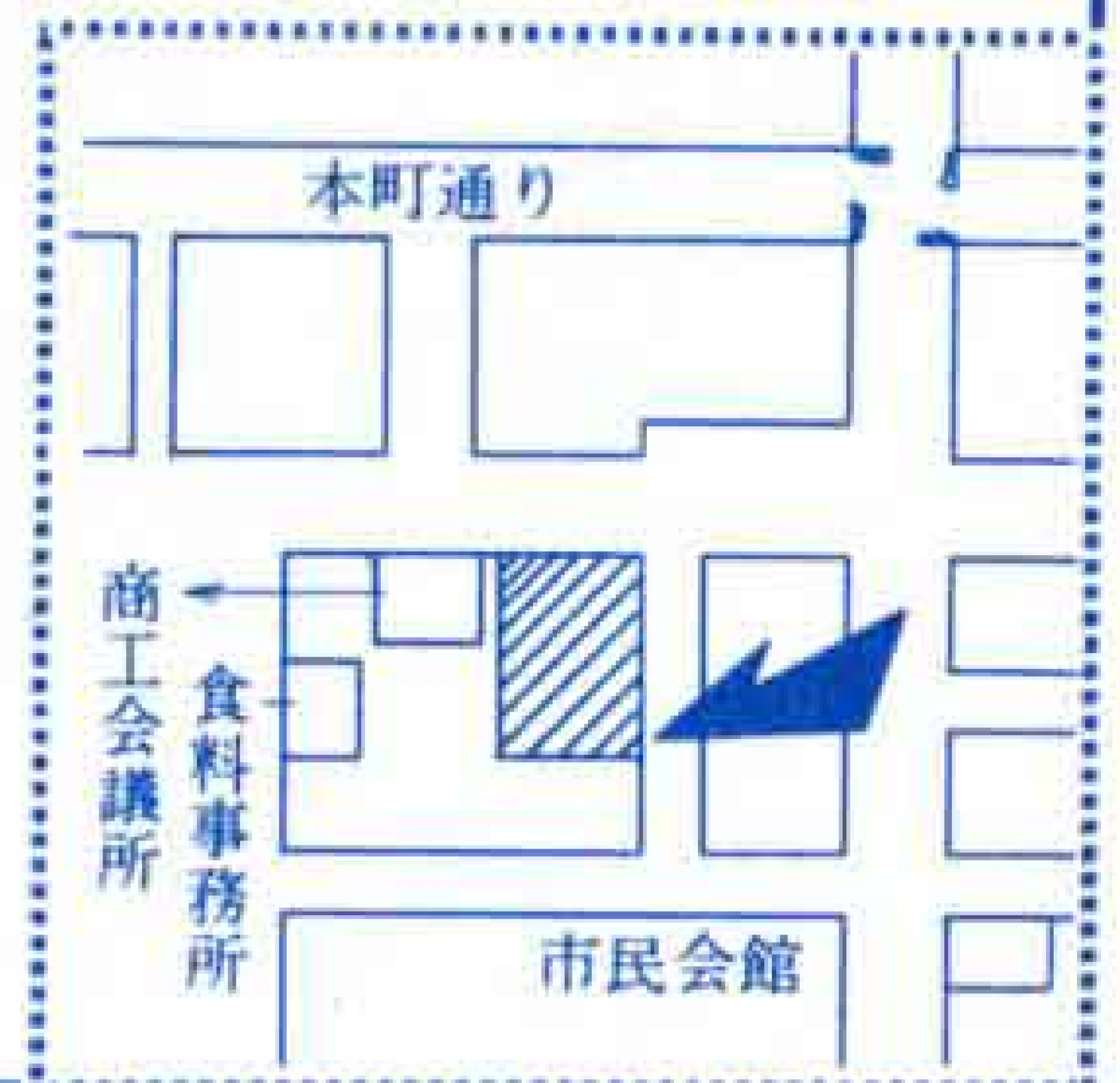


吉原本町駐車場

3月1日から使用できます

吉原本町駐車場は、広さが982平方メートルで、39台の車を収容することができます。営業時間と料金はすでに利用していただいている市営駐車場と同じで、時間は午前8時から午後8時まで、料金は1時間50円です。

なお、割引回数券を発行していますのでご利用ください。



1年間で196人を認定しました

…市の医療救済制度で…

大気汚染によって慢性気管支炎や気管支ぜんそくにかかった小学生以下の児童に医療費の支給をはじめて1年になります。医療費を支給しているのは「富士市大気汚染に係る健康被害の救済に関する条例」で定められた、大気汚染被害者認定審査会で認定された児童です。

いままでに認定された児童は199人でこのうち、3人が市外に転出しているの

で、現在認定されているのは196人（男123人、女73人）です。認定された児童を病名別にみると、気管支ぜんそくが186人、慢性気管支炎が10人です。

地区別では、今泉地区が47人でもつとも多く、元吉原地区23人、鷹岡地区19人、吉原地区と田子浦地区が17人、原田地区11人の順になっています。

また、年齢別では中学生が4人、小学生が112人、小学生以下が80人となっています。このうち、小学生を学校別にみると、今泉小が14人、元吉原小が13人、田子浦小が12人、吉原小と広見小が10人、富士第1小と富士第2小が8人となつてい

ます。

なお、2月1日から国の医療救済制度がスタートしましたが、市の医療救済を受けた196人のうち、国の医療救済の適用を受ける人が129人います。これらの人は国の医療救済を受けるための手続きをしなければなりません。手続きをしないと、国の医療救済はもとより、市の医療救済も受けられなくなりますので、早目に手続きをすませてください。申請していただくのは市役所衛生課です。

残る67人はいままでどおり市の医療救済が継続して適用されますので、手続きをする必要はありません。

これからは基準測点以外の地域でも測定を

富士市の大気汚染は、昭和44年をピークに少しずつ良くなっています。昭和44年にはほとんどの測点が0.05 P P m以上を記録し、全国的にみても高濃度の亜硫酸ガスが検出されました。その後、施設の改善、低イオウ重油の使用などによって、大幅に減少しました。

しかし、煙源改善によつて、吉原第3中学校、勤労青少年会館などに高濃度の汚染が現われ、心配されました。これも低イオウ重油の使用などによつて各測点とも汚染は減少しており、環境基準の達成に明るい見通しがたつています。これからは、低イオウ重油の使用を中心に、環境基準を達成するようつとめていきます。

なお、各測点で過去3年間に月平均が0.06 P P m以上を記録した回数は次のとおりです。

	44年	45年	46年
富士保健所	5回	9回	3回
吉原第3中学校	8回	2回	1回
勤労青少年会館	2回	4回	2回
元吉原中学校	9回	7回	3回
富士中学校	1回	3回	0回
鷹岡公民館	3回	2回	0回
大渕中学校	0回	0回	0回

これらの測定結果は気象条件などが一定ではありません。したがって、これからは基準測点以外の地域の測定を実施する必要があります。

イオウ酸化物測定結果

46  
・  
10  
?  
46  
・  
12

測定地点		10月	11月	12月
富士保健所	44年	0.049	0.063	0.093
	45年	0.050	0.056	0.062
	46年	0.047	0.055	0.047
吉原第三中学校	44年	0.068	0.065	0.068
	45年	0.041	0.043	0.048
	46年	0.049	0.045	0.046
勤労青少年会館	44年	0.045	0.045	0.041
	45年	0.032	0.037	0.039
	46年	0.040	0.032	0.024
元吉原中学校	44年	0.096	0.097	0.073
	45年	0.060	0.062	0.072
	46年	0.061	0.060	0.049
富士中学校	44年	0.046	0.051	0.047
	45年	0.045	0.040	0.048
	46年	0.038	0.037	0.037
鷹岡公民館	44年	0.046	0.046	0.046
	45年	0.051	0.045	0.055
	46年	0.041	0.030	0.035
大渕中学校	44年	0.043	0.016	—
	45年	0.022	0.022	0.024
	46年	0.034	0.020	0.020

(単位は P P m)